

第1分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題 「社会に開かれた教育課程を編成・実施するための小中連携の在り方」  
～家庭や地域との連携や校内組織・役割分担を通して～

西諸支会（小林市教頭会）

1 主題設定の理由

昨年度までの小林市の研究主題及び副題は「子どもの発達に関する課題」がテーマとし、研究主題を「子どもの発達に関する課題の解決を図る小中連携の在り方」として、地域や関係機関との連携と校内指導・支援体制の確立を副題として研究を進めてきた。

成果として、本市の課題の一つでもある、たくましく未来を切り拓く資質・能力を備えた児童生徒の育成を図る手立てについて内容を深めることができた。

本年度から研究課題を「教育課程に関する課題」とし、従来の「小中連携の在り方」を踏襲する。小学校から中学校への発達段階的を踏まえた教育課程の編成の在り方について協議し、実践につなげていくことで、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。これにより未来の作り手となるために必要な資質・能力の育成を図ることを狙いとし、本主題を設定した。

2 研究のねらい

教頭として、育成したい資質・能力の社会との共有や連携、家庭や地域との連携及び協働に関することに対し、教職員や家庭、地域の方々に対し、どのようなアプローチができるか、各校や各校区における方策についてまとめる。全体で共有することにより、共通の視点となるものを見いだし、小中連携しながら実践へとつなげていくことをねらいとする。

3 研究の概要と成果

(1) 研究内容

子どもの発達に関する課題点についての各校区における方策をまとめ、実践へとつなげる。

(2) 研究の実際

① 各中学校区をベースとしたグループを編成し、各校の課題点について明らかにしつつ、各学校の実態に応じた方策について意見を出し合った。本年度は研究初年度ということもあり、研究内容を絞り込むことはせずに、内容に幅をもたせることとした。

② 本年度は課題点をもとに、以下の内容について協議し、方策をまとめる。

第1回	本年度の研究の概要
第2回	教育課程におけるプロアクティブな生徒指導へ向けた取組について
第3回	働きやすい職場環境を目指した教育課程の見直しについて
第4回	教育課程におけるICTの活用について
第5回	コミュニティ・スクールの運営や地域学校協働活動の在り方について
第6回	研究のまとめ

(3) 内容の考察と今後の方策

① 第2回「教育課程におけるプロアクティブな生徒指導へ向けた取組への方策」

今回の研修では、発達支持的生徒指導と課題未然防止教育について教育課程に位置づけられている各学校の取組や、今後必要であると考えられる取組などを明らかにした。

ア 特別な配慮が必要な児童生徒への対応

- ・ 通級指導クラス担当が対応し、機能している。
- ・ 子どもの特性を早期に把握するため小中の縦の連携や学校単位の横の連携を行う。
- ・ 不適切な指導につながらないようチームで粘り強い指導を行う。
- ・ 状況に応じてSSWや市の福祉課がケース会議やいじめ不登校対策委員会に参加し、情報共有を行う。
- ・ まちづくり協議会の学習支援を行う。

イ 共通理解・実践

- ・ 毎週学年会を設定し、問題が起きる前に対応できる体制を整える。
- ・ 職員室の情報交換を密にし、子どもの家庭環境の理解、配慮を推進する。

- ・ 活動を縦割り班にして上級生の成長を促す。
- ・ 「なぜこの活動を行うのか」を全職員で共通理解し、ベクトルを合わせる。
- ・ ソーシャルスキルトレーニングを入れて、子どもたちが気持ちを伝える方法を身につけさせる。
- ・ 「不適切な指導のハンドブック」を活用して、職員への周知を図る。

#### ウ スクールワイドPBS

- ・ 共通課題を解決するための一つの手段として教師の意識改革を行う。
- ・ ルールをしっかりと守るように導く。
- ・ 行動には理由があることを踏まえ、褒めることの大切さを認識する。
- ・ まだ指導ができていない職員に対して研修を計画している。

### ② 第3回「働きやすい職場環境を目指した教育課程の見直しのための方策」

本年度の全国公立学校教頭会の緊急課題に関する速報では、教員不足問題の現状や学校・教師が担う業務に係る3分類において、学校が担う業務が適正化されているとはいえないという結果が出された。

そこで、自校や学校区での実態と方策などについて意見を出し合った。

特に、「みやぎの学校における働き方改革」に挙げられている「家庭・地域等との連携と役割分担」、「業務の見直しと分担について」の2点について扱った。

#### ア 家庭・地域等との連携と役割分担における取組

- ・ 負担軽減策として、PTA関係の夜の会議を減らしたり、ソーシャルメディアを導入して保護者同士のやり取りを可能にしたりすることもできる。
- ・ 地域ボランティア(学習支援・業務支援)に定期的に協力を仰ぐ。
- ・ 登校の見守りは家庭、地域に行ってもらおう。

#### イ 業務の見直しと分担における取組

- ・ 勤務形態：フレックスタイム制の導入により施錠確認が楽になり、立番や下校指導も業務内と捉えられ、依頼がしやすい。

### ③ 第4回「教育の情報化における教育課程の見直しのための方策」

教育の情報化は、GIGAスクール構想の進行により急速に進展し、1人1台端末や校

務支援システムの整備・活用が進んでいる。今後、ICT活用を教育課程編成にどう生かすかについて検討した。

#### ア 授業や校務における利点

- ・ 校務支援システムやICTツールの導入により、事務処理が迅速化し、効率が良くなる。
- ・ 教材や校務情報をデジタル化することで、蓄積・共有が容易になる。
- ・ デジタル教材の作成が楽になり、授業中に即座に配信できるようになる。
- ・ 共有フォルダで考えや情報を共有しやすくなり、校務の透明性が向上する。
- ・ 欠席連絡や悩み相談を「安心メール」で保護者とやり取りし、電話対応の負担を軽減する。

#### イ ICT活用を踏まえた今後の教育課程編成の在り方

- ・ AI・デジタル教材の活用ではAIドリルを個別学習に積極的に活用し、児童生徒の理解度に応じた問題を自動出題で行えるようにする。
- ・ 情報活用能力の育成では教員向けに校務支援システムやクローム活用研修を実施し、校務効率化を促進する。
- ・ 「情報モラル授業」を組み込み、授業でSNSの危険性や著作権を指導する。
- ・ ペーパーレス化を推進し保護者アンケートをフォームで実施し、集計の自動化を行う。
- ・ デジタル教材活用の時間設定を教育課程に組み込み、時間を確保する。
- ・ 継続可能なアカウント管理を実現するために、異動時にも引き継ぎ可能な仕組みを構築する。

## 4 今後の課題

### (1) 働きやすい職場環境を目指して

- 児童生徒の在校時間が、そのまま勤務時間内外を問わず、教職員の安全管理義務に関わってくる。働き方改革を進めるためには、放課後の活動など児童生徒の在校時間を思い切って見直すことが今後の課題になる。

### (2) 教育課程におけるICTの活用に関して

- 職員間のICTスキル差があり、世代間や個人差が大きく、活用に偏りが生じる。
- お知らせやアンケートなどのデジタル化は進むが、定着が難しく、紙媒体との併用が求められ、見直しが必要である。